

農業技術情報

令和6年8月20日

ゆとりみらい21推進協議会指導部会

十勝普及センター十勝東部支所	015-572-3128
J A幕別町	0155-54-4118
J Aさつない	56-2131
J A帯広大正	64-4591
日甜幕別原料事務所	54-2756
幕別町農林課	54-6605

★各作物の生育・作業の遅速（幕別町8月15日）（ ）内は平年値

作物名	遅速 日数	生育および作業状況	生育期節
秋まき小麦	—	収穫始 7/17 (7/23) 収穫期 7/18 (7/26) 収穫終 7/22 (7/30)	
春まき小麦 (はるきらり)	—	収穫始 7/31 (8/4) 収穫期 8/2 (8/7) 収穫終 8/3 (8/11)	成熟期 7/21 (7/30)
馬鈴しょ	± 0	茎長 67.1 (73.3) cm 茎数 3.2 (3.8) 本/株	茎葉黄変期 8/9 (8/9)
大豆	早 8	茎長 59.8 (76.8) cm 葉数 9.5 (9.9) 枚 着莢数 480.1 (459.8) 個/m ²	
小豆	早 8	茎長 55.2 (60.0) cm 葉数 10.7 (11.8) 枚 着莢数 325.0 (157.0) 個/m ²	開花始 7/18 (7/24) 開花期 7/21 (7/27)
菜豆（金時）	早 4	茎長 38.9 (54.2) cm 葉数 4.0 (4.1) 枚 着莢数 80.8 (170.5) 個/m ²	
てん菜（移植）	早 5	草丈 65.8 (68.9) cm 葉数 30.5 (29.1) 枚 根周 38.4 (35.6) cm	
てん菜（直播）	早 6	草丈 69.8 (57.2) cm 葉数 24.4 (22.8) 枚 根周 30.9 (25.6) cm	
牧草（2番草）	早 1	草丈 84.6 (83.1) cm	
飼料用とうもろこし	早 8	草丈 310.6 (307.2) cm 出葉数 18.5 (17.4) 枚 稈長 286.4 (274.0) cm	絹糸抽出期 7/24 (7/29) 乳熟期 8/15 (8/23)
ながいも	早 2	調整長 36.6 (30.3) cm いも重 402.3 (356.5) g いも径 43.7 (46.7) mm	
たまねぎ	早 4	球径 6.5 (7.47) cm	倒伏期 7/31 (8/5)

畑 作

薬剤使用にあたっては、各部会や販売先等の基準に従ってください。
薬量および倍率は基準内に抑え、薬害やドリフトには十分注意してください。

<秋まき小麦>

高収量・高品質の小麦づくりは、適期適正は種からスタートします。根張りが良く強い株を均一に作るために、過湿時には種床準備は避けましょう。また、種子伝染性病害や土壌病害の発生リスクを最小限にするために土の移動に注意し、消毒済の購入種子を使用しましょう。

1 適正は種に向けて

・透排水性の劣るほ場では、心土破碎などにより耕盤層を改善しましょう。

- ・は種前に必ず土壌酸度を測定し、pH5.5 以上を目標に酸度矯正をしましょう。
土壌サンプルの持ち込みと問い合わせは、JA・普及センターにお願いします。
- ・銅欠乏症状の出やすい土壌(腐植の多い火山性土等)は、銅の補給が必要です(Cu 入り肥料等や堆肥の施用)。ただし、その際には過剰障害を防ぐため、土壌診断値に基づき、適正量を施用しましょう。

<てんさい>

1 褐斑病の防除

8月に入り降雨が続き、発病が急速に広がっているので、しっかり防除してください(表1)。

2 ヨトウガの防除

老齢化すると薬剤の効果が下がるため、ほ場観察し、防除適期を逃さないようにしましょう(表1)。

表1 8月下旬の防除薬剤例(褐斑病・ヨトウガ)

対象 病害虫	農薬名	RAC コード	使用濃度 (倍)	使用時期 (収穫前)	回数 (以内)
褐斑病	ビートスター または どさんこスター	3 M3	500	21日	4回
ヨトウガ	ゲットアウト WDG	3A	2,000~3,000	14日	4回

3 葉腐病の防除

葉腐病は高温多湿条件で多発します。発生が始まっていますので、8月下旬の防除時に同時防除を行ってください。

表2 葉腐病の防除薬剤例

農薬名	RAC コード	使用濃度 (倍)	使用時期 (収穫前)	使用回数 (以内)
ミリオネアフロアブル	7	4,000	7日	4回

<ばれいしょ>

茎葉黄変期は平年並に迎えました。

13日に行った試し掘りでは、1株当たりのいも数、平均1個重、規格内収量とも平年並みですが、ほ場間差が大きいようです。今後の肥大状況を確認し茎葉処理を行いましょう。

1 塊茎腐敗、軟腐病対策

生育後半の疫病、軟腐病発生は塊茎腐敗の原因となります。収穫までの日数や病害の発生状況に応じて薬剤を選定し防除を継続しましょう。

※薬剤は 7/17 付技術情報参照(疫病)、8/2 付技術情報参照(軟腐病)

2 収穫時の注意

- ・ 収穫作業は茎葉枯凋処理から7～10 日後に、いもの皮むけが生じないことを確認して、晴れた暖かい日に行いましょう。また、茎葉枯凋後7～14 日以内に収穫しましょう。
- ・ 収穫が早すぎると、収量、でん粉価の減少、皮むけなどの障害が発生する可能性があります。
- ・ 収穫が遅れると、黒あざ病菌核の増加や、腐敗、緑化等品質の低下が懸念されます。
- ・ 掘り取り後は腐敗を防ぐため、風乾を十分に行ってください。
- ・ 選別時や網コン等への投入時には、傷、打撲などができないように注意しましょう。
- ・ 高温時の掘取りは品温が上がり、貯蔵後の腐敗に繋がるので注意してください。

※茎葉処理方法については 8/2 付農業技術情報参照

<豆 類>

豆類は全般的に生育が進んでおり、過繁茂で風通しの悪いほ場も散見されますので、このようなほ場では防除の徹底をお願いします。

1 マメシンクイガ・カメムシの防除(大豆)

まだ2 回防除していないほ場は、収穫前日数に留意しながら適期に防除します。※防除方法は 8/2 付技術情報を参照。

2 インゲンマメ・ウムシの防除(金時、手亡)

まだ2 回防除していないほ場は、収穫前日数に留意しながら適期に防除します。※防除方法は 8/2 付技術情報を参照。

3 マキバカスミカメ・アズキノメイガ・ハダニ・アブラムシ類防除(小豆)

発生が見られた場合、収穫前日数に留意しながら適期に防除します。※薬剤は 7/17 付技術情報参照

4 菌核病・灰色かび病防除(小豆)

発生が始まっています。既に3 回防除していても発生が見られる場合、収穫前日数に留意しながら適期に防除します。※薬剤は 8/2 付技術情報参照

5 金時の収穫

ほ場ごとの登熟状況と天候を考慮し、収穫方法に応じた適期収穫と乾燥調製に努めましょう。

収穫が早すぎると、へこみ・つぶれ粒が発生しやすくなり、収穫が遅れると色流れ粒・裂皮・割れ粒が発生しやすくなります。収穫時には収穫機械、脱穀機の調整を確認するようにしましょう。

○ピックアップ収穫

- ・収穫・脱穀適期: 完熟期(熟莢率 100%、成熟期から3日後～6日以内)
- ・作業速度: 0.7m/s 以下
- ・倒伏程度によらず収穫が可能(ビーンハーベスタまたはビーンカッタ)。

○ダイレクト収穫

- ・収穫・脱穀適期: 完熟期(熟莢率ほぼ 100%)から6日以内
- ・作業速度: 0.6～0.8m/s(総重量 700g/m² 以上では 0.6m/s 未満)

脱穀時は高水分を考慮し、収穫機の回転数を調整します。収穫以上の高水分では押傷・つぶれ粒が多発し、ほ場では追の圃場収穫を行う際、脱穀機でも裂皮粒が多発します。また、適水分(19～23%)でも 300 回転以上では損傷粒が発生します。

《参考》金時の子実水分の簡易判定基準(H13十勝農試技術普及部)

子実水分(%)	指で押した場合	爪で押した場合
30	強く押すと弾力性を感じる	爪痕の周囲が広範囲にへこむ
22	強く押すとへこむ	爪痕の周囲が広範囲にへこむ
20	へこまない	爪痕が深くへこむ
18	へこまない	爪痕が浅くへこむ
15	へこまない	爪痕がかすかにつく(完熟)

野 菜

薬剤使用にあたっては、各部会や販売先等の基準に従ってください。
薬量および倍率は基準内に抑え、薬害やドリフトには十分注意してください。

<ながいも>

(1) 強風によるつる切れ防止対策

茎葉量が最も多い時期です。強風等による「つる切れ」防止のため、支柱の補強やネットのたるみの点検・補強を行ってください。

(2) トレンチャー溝の陥没

ほ場の陥没は滞水や奇形いも発生の原因となります。地上部の陥没が見られなくても、水の流れ等で内部に地下に空洞が発生する場合があります。特に入り口付近に陥没が見られた際は早期に通路の土で埋め戻すようにしてください。

(3) アブラムシの防除

アブラムシの発生量が多い場合は、必要に応じて防除を行ってください。

表 2 アブラムシの防除薬剤例

薬剤名	RAC コード	使用濃度(倍)	使用時期	使用回数
ダントツ水溶剤	4A	2,000～4,000	収穫7日前	3回以内
コルト顆粒水和剤	9B	4,000	収穫前日	3回以内

土壌診断を活用しましょう

土壌診断を実施し、適切な肥料選定をすることで、養分バランスの適正化とコスト節減に活用しましょう。
特にリン酸・カリの蓄積が進んでいるほ場が多い傾向にありますので、土壌診断に基づき、適切な施肥設計を行いましょう。

※お急ぎの場合は生育期間中でも、畝間から土壌サンプルの採取は可能です。

多忙な農繁期における農作業事故防止に努めましょう!

基本事項を守り、機械による事故に注意しましょう。

- 1 トラクタ発進・P T O始動時は、クラクションなどを鳴らし周囲に合図する。
- 2 機械の調整・整備時（つまり物除去等）は必ずエンジンを止める。
- 3 機械の飛び降り・飛び乗りをしない。
- 4 作業機を上げ点検する時やつまり物を除去する時は、作業機の下降を防止するため「固定脚」や「かませ木」を用い下降防止に努めます。
- 5 夕方や夜間に公道を走行する時は、車幅灯を取り付ける、早めの合図、低速車マーク・反射シールをはるなど、トラクタの位置や作業機の大きさを知らせるようにします。

